

残りの者 シャーアル

石巻祈りの家NEWS LETTER 「シャーアル」(126号)
986-0801 宮城県石巻市水明北3丁目13番28号
TEL /0225-96-1497 Email/ hjm-ja2@yg8.so-net.ne.jp

振替口座 02290-6-126186 口座名称 阿部 一
●代表/阿部 一 ●副代表/菊池せい子



私たちの交わりとは御父と御子イエス・キリストとの交わりです。
(Iヨハネ1/3)

信仰: it(それ) or you(あなた)

- 「想定外」の言葉が日常的に使われるほど、日本全国では40℃を越える異常な暑さが続き、各地で熱中症での死亡が報じられました。そして、「危険情報」として発せられほど、人間の生命に関わる大きな問題となって来ました。
- それに追い打ちをかけるように、局地的な豪雨によって河川の氾濫や土砂崩れが起こり、多くのいのちが失われ、住宅や農地などに壊滅的な被害が生じました。被災者の上に、神の支えを祈っております。皆さんはお変わりございませんか。
- 石巻も厳しい暑さでしたが、月末にはどうにか過ごしやすくなり、私たちも神の憐れみと皆さんの祈りの支えによって励まし合って信仰生活を歩んでいます。
- 私たちは、何も無いところで一人で生きて行くことは出来ません。好むと好まざるに関わらず、私たちは私たちが囲む環境や人間との関係の中で生きています。
- キリスト教の信仰生活でも、私たちは神と兄弟姉妹の関係だけでなく、教会外の一般の人達との関わりの中で生かされています。
- 中川健一師は「使徒信条」の学びの中で、その関係には「我—それ」の関係と「我—汝」の関係があること、また、聖書の「父なる神」は人格を持つ神であるゆえに「我—汝」の関係で、応答を求める神であることを指摘しています。
(この2つの関係は、ルネッサンスに起源するとトルニエが指摘していることを工藤信夫師が著書で紹介しています)
- 聖書を単に知識を求めるためや研究対象として学ぶ姿勢は「我—それ」の関係であり、それは一方的に探求するだけで、神から聞き、それに応答する関係ではないと指摘しています。
- 聖書は、最初の創世記から、神は「我—汝」の交流関係を通して、神が啓示された御旨を聞き、それにレスポンスする対象として人を創造されたことを明確に教えています。
- 人間の親しい関係でも、互いの信頼に基づいた人格的応答が極めて大切のように、神は私たちとの親しい応答のある交わりを求めておられるのです。
- 現実の私たちの歩みを省みるときに、一方的に自分の願いだけを神に求めるだけで、聖書を読みながらもそこで神が自分に問うていることをしっかりと受けとめ、熟慮し、祈りの中で神に応答していることが少ないことを反省させられます。どんなに神は寂しがっておられるでしょうか。
- このように足りない私たちを、天の父は忍耐をも持って、応答を待っておられます。神との交わりの中で感謝と祈りを携え、御旨に聞き従うという謙遜を忘れずに、今日の一步を踏み出したいと思えます。

先月の多くの恵みから

- ① 8/10に、石巻水産総合振興センターで一般社団法人「ベテルの風」「シャロームいしのみき就労継続支援B型福祉事業所(理事長/石巻栄光教会員 大林健太郎)主催の「障がい者町興シンポジウム」に参加しました。大林兄は長年障がい者のために浦河ベテルの家から学びを継続し、一般社団法人「石巻ベテルの家」を立ち上げ、一昨年より障がい者家族・社会福祉協議会・地元一般企業の協力を得て障がい者の就労事業所「ベテルの風」の活動を開始されました。この活動のために是非お祈りと商品購入での協力をお願いします。(HPでご覧下さい具体的な商品等の販売他の活動を見ることが出来ます。)
- ② 8月は教会の諸集会(楽しい手芸の会/聖書を読む会/ほっと・Time/コーラス「花」)はお休みでしたが、9月より再開されます。各集会が良き働きが出来るようにお祈り下さい。

● <祈りの要請> 「石巻祈りの家」は満10年を迎えて、神の憐れみと多くの教会・兄弟の祈りの支えに心から感謝しています。

- ③ 8/12に、7/5に幽門癌の手術をされ、胃から小腸の方に食物が入っていかないために経過観察をされている岸浪市夫先生を古川市民病院にお見舞いに行つて来ました。まだ、症状は好転せずに点滴だけの治療ですので、原因が突き止められ適切な治療が為されるように覚えて下さい。
- ④ 10/14、群が地域教会として開所して満10年になるのでICCで支えて下さった方や地元教会へのささやかな感謝の会を開きます。良き会となりますように祈り支えて下さい。
- ⑤ 8/22に、石巻の教会合同「ゆるしについて」の学び会の第5回目が祈りの家で持たれました。講師の川上直哉師の御労と深い学びを感謝しました。
- ⑥ 8/19に、京都の元立命館大の三浦正行先生がお兄さんご夫妻とともに教会を訪問下さり、沢山の支援金を頂きました。
- ⑦ 8/2に震災以降、香川県から継続して石巻地区の教会を支援して下さっている片岡俊兄と今回同行された寺岡さん、高田さんと夕食を一緒にしての主にあるお交わりができました。
- ⑧ 8月も、多くの兄姉より献金。献品、手紙、メール、電話等で群の活動を励ましをいただき感謝します。
- ⑨ 8/24、次年度の3.11追悼記念会を初めて女川で行うため、会場予定の「まちなか交流センター」で会場視察と、準備委員会が持たれました。必要経費が満たされるようにお祈り下さい。

■ 今月、次の課題を祈っていただければ幸いです。

- ① 今野かつ子さん/二平幸子さん/千葉真理子姉/岸浪市夫先生の回復/新井李恵子姉の治療のために。② 地域より求道者が起こされるように。③ 大平英秀さんのために ④ 西日本の被災者のために

群の定期集会

- ・礼拝(毎週日曜日) 10:00-11:30
- ・祈り会(毎週水曜日) 10:00-11:30
- ・聖書を読む会(第1火曜日) 10:30-12:00
- ・ほっと・Time(第3火曜日) 10:30-12:00
- ・コーラス「花」(第2,4木曜日) 13:30-15:00
- ・楽しい手芸(第2,4月曜日) 10:00-12:00
- ・学習支援(地域の子どもの要望に応じて)

信仰を詠う

9月 蜘蛛の糸

蜘蛛の巣に掛かりし一瞬血の失せる
べとつく糸の搦まる沃気
身悶えの積もりしかとも腹塊の
不気味なまるさ操糸吐切れなく
龍之介のそろり下ろさる「蜘蛛の糸」
行く末付るや蜘蛛の振る舞い



阿部 八重子

一瞬目を掠めた蜘蛛の巣で
眼科へ通うはめに、点眼薬で
治療。虫の中で怖いものの一
つに蜘蛛。張られた巣を見ると
「あー、なんて美しい!」
でも引掛ってしまった時、血
の気が失せる。何故?、あの
まるまるのお腹に触れる感
触を思っただけでぶるぶる慄
える。変ですか私?

7月末から8月末までに来訪された先生・兄姉/「祈りの家」の地区教会活動との関わり



8/16 マンホール画家のカールさんと希望の家でお交わり 8/19 三浦正行先生がお兄さん夫妻と来訪 8/23 娘の奉仕している荒井CC訪問 8/5 大平さんが礼拝に参加



8/10 石巻ベテルの家主催「障がいと町興しシンポジウム」(石巻水産総合振興センターで)に参加 障害者就労支援B型福祉事業「ベテルの風」を通しての活動と地域貢献の可能性発表



秋の味覚の美味しい果物が届きました 8/22 「ゆるしについて」の学び会 次年度女川で開催予定場所での3.11追悼記念会とポスターの原案 見事に咲いたヘブンリー・ブルー

アドナイ・イルエ

「アドナイ・イルエ」=主の山に備え在りの意

信仰の歩みの中で

メシアニック・ジューと日本人

石巻祈りの家代表 阿部一

今回の東日本大震災で、日本人はこの世の「終わり」かと思っただけで、復興が進み日常生活が戻るにつれて、その思いは過去のものとして記憶から消え去ったように見えます。それは、旧約聖書におけるユダヤ人の信仰の歩みと重なります。

日本人の葬儀では、弔辞が「天国で安らかにお休み下さい」という定型化したことばで終わることが多い。

私たちが小さい頃には、嘘をつく舌を抜くという恐ろしい閻魔様や、この世で正直な生き方をしなければ、三途の川は渡れず、恐ろしい地獄に行くと言われた。幼いながら、今の生き方が死後に関わるということを知り、「お天道様が見ている」という自分の心の中さえも見通す超自然的な方が居られるという思いと共に心のブレーキとして働いた。

今はそういうことを聞く機会もなく、どんな生活をしようが、亡くなればストレートに「天国」に行くのが当然と思っている様子である。信仰が現実の生活において生きたものとなっていない。

聖書の中から「裁き」や「天国」についての学び、主の十字架の贖いによって、信仰によって神の裁きから解放を与えられていること、そして、その恵みに応える日常生活のあり方(聖化の歩み)がいかに重要かを教えられてきた。

しかし、自分では「ヨハネの黙示録」や幾冊かの注解書を読みながらも、礼拝において「ヨハネ黙示録」が継続して説き明かされることもなかったし、学びにおいて「キリスト教の終末論」についても、エデンの園から新天新地まで系統的に学ぶ機会はなかった。

改めて、「私たちクリスチャンはどうだろうか」と考える。「死も、涙も、苦しきもない神の御許の天国」にそのまま直行すると思っている人がほとんどではないかと思う。

イエスは、山上の垂訓で「昔の人々に『・・してはならない』と言われたのを、あなた方は聞いています。しかし、わたしはあなた方に言います。『・・しなさい』』と語り、「それを聞いて群

衆は驚いた。イエスは律法学者のようにではなく、権威あるもののように教えられたからである」(マタイ5/17-7/29)とそこに記されている。

これは、私たちが日常の生活において多くのことをその本質を考へることなく、言い伝えや慣習によって判断して行動していることを警告している。目の前の衣食住については心を配るが人生最大の課題の死や死後のことをずっと先延ばしにして真剣に考へようとしなくなった。

あらゆる民族、地方には宗教がある。それらは、形は違えどもどの宗教も。誰もが理解出来ない「死」からの解放を共通して教えている。日本の昔の僧侶たちも苛酷な修行をし、真理を求めて命を賭して日本海の荒海を乗り越え、中国に渡った。そこには真剣な「求道の心」があった。しかし、そこで得た悟りや安心はその求道者個人だけのものであった。そして、その教えは人間の文化や科学が発達すると、日々の生き方の指針や力を失った。その中で、人間の力を過信し、死さえも差し迫ったものとは考へず、安易にそれまでの慣習や言い伝えで代替してきた。

それと同じように、ユダヤ人は神の選民というプライドを持ちながら、救い主として神がこの世に送られたイエス・キリストをメシアと受け入れることを拒否し、今もこの世をダビデ王国のような社会を造ってくれるメシアの到来を期待している。そして、モーセ五書やその後それを厳格に守るための細則、伝統と言ひ伝えを守ることに固守して来た。

しかし、今、そのユダヤ人の中から旧約聖書の契約と預言を学びなおし、その中で全ての旧約の預言が成就されている事実を理解し、キリストが待望してきたメシアであると信じる人が起こされている。彼らはメシアニック・ジューと呼ばれる。聖書の神はユダヤ人の神でもあり、異邦人の神でもあることは聖書が教えているとおりである。彼らは日本人同様に、クリスチャンになると家族や社会から疎外されるという厳しい環境の中にある。しかし、しっかりとキリストを救い主(メシア)と信じ、新しく変えられた者として日常生活を通してユダヤ人やイスラム人の救いのために良き証し人として活動している。

さて、私たち日本のクリスチャンは、「メシアニック・ジューと同じように、神の再創造のプロセスの中で真剣に生きているだろうか」とその証しを聞いて問われた。

教会に所属し、礼拝に参加し、献金をし、奉仕をする中で、神が私たちに救いに導かれたのは「なぜか」を、もう一度問い直す時代であると思わされている。

